

ようこそ青山学院へ

新たな出会いと発見に満ちた学院生活。
新しい仲間へ歓迎のメッセージを贈ります。

幼稚園

Kindergarten

幼稚園教諭 赤坂 洋子

神さまに信頼して

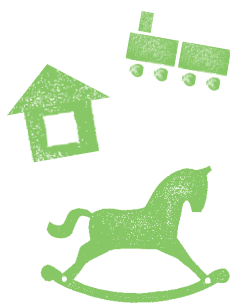
ご入園おめでとうございます。ようこそ、幼稚園へ！

皆さんがこれから3年間過ごす幼稚園って、どんな所でしよう？ お兄さん、お姉さんたちに聞いてみたら「毎日くる所」「積み木とか、大工さんとかがあって、それで遊ぶ所」「友だちもいる」などと言っていましたよ。「年少さんは、ママと離れるのが悲しくて泣いちゃうかな？」と心配するお姉さんに「そういう時は、どうしたらいいの？」と聞いてみたら「初めは悲しくても、だんだん楽しくなるから大丈夫」「いっぱい遊んだら好きになるよ」と教えてくれました。そう、幼稚園は皆さんが好きなことをして、いっぱい遊ぶ所です。楽しいことや嬉しいことがたくさんありますよ。悲しくなった時は、先生たちはもちろん、お兄さんお姉さんたちも皆さんを守ってくれることでしょう。

そして青山学院幼稚園は礼拝を大切にしている所です。毎日、

お祈りをして、讃美歌を歌います。どんな時も、父なる神さまと一緒にいてくださいます。神さまに信頼して、安心して幼稚園の3年間をスタートいたしましょう。





親子で読んで欲しい絵本

幼稚園教諭 矢部 尚子

『ちょっとだけ』（瀧村有子 さく 鈴木永子 え）福音館書店

私がこの絵本に出会ったのは、長女が2歳、次女を妊娠している頃でした。優しい絵に惹かれて絵本を開くと、そこには赤ちゃんが生まれてお姉ちゃんとなったなっちゃんが、忙しいお母さんを気遣って様々なことを自分でやってみようとする健気な姿が描かれていました。しかしなっちゃんの頑張りの糸はとうとう切れてしまいます。その時のお母さんの愛情深い対応を読み、私は涙が溢れ出したのを今でも覚えています。

下の子が生まれ、神様から授かった我が子への愛情は以前と変わらないのに、物理的に余裕がなくなる母親の気持ちにこの絵本は優しいエールを与えてくれます。私も3人の子どもたちが幼かった頃は必死の毎日でしたが、この絵本を読む度に涙ぐみ我が子をいっぱい抱っこしました。幼稚園でも時々「下の子を授かりました。嬉しいけれどドキドキです」と保護者から話を聞くことがあります。その時にはこの絵本を紹介し、子育ての面白さと大変さを共に分かち合っていきましょうね、とエールを送っています。



初等部教諭 谷 純太

備えられた道

ご入学ご進級おめでとうございます。新年度をどのような思いで歩み始めているのでしょうか。

昨年度の私の日課は、担任する1年生の日記を毎日読むことでした。入学してしばらくは絵でかいていたものが、ひらがな・カタカナ・漢字を学び、文章で日記を書けるようになっていく1年生の姿に大きな成長を感じました。

1年生で最初に学ぶ漢字は「一」です。一番の一です。「青山学院は日本一・世界一の学校です」と言い切ることは私にはできません。なぜなら、世界には数え切れないほど学校があって、それぞれに良さがあって、比べることなどできないからです。でも「青山学院が今のあなたにとって一番相応しい場です」と言うことはできると考えています。なぜなら、今のあなたにとって最も相応しい道として神様が備えて下さったと信じるからです。人によってではなく、神様によって備えられた道なのです。道に悩む時、私の師がそう教えてくれました。

「あなたの道を主に任せよ。」(詩編 37:5) 神様によって備えられた道を、主に任せて、祈りながら歩めますように。

3年 長谷川 世名

ぼくのおすすめ



入学おめでとう。

1年生のおすすめのあそびを教えてあげるよ。1年生の教室の前には、にじ色広場があって、ジャングルジムやうんていがあります。しばふでおにごっこをすると、色んな子となかよくなれて楽しいよ。ぼくは今でもおにごっこが大好きです。

じゅぎょうもおすすめです。ぼくはぜんぶのじゅぎょうが大好きです。なぜかという、みんながあてられて、はじめて聞く子の声やお話しが聞けるからです。色んな先生が教えてくれて、おもしろいよ。1年生にも、じゅぎょうを好きになってほしいな。

あと、きゅう食もすごくおいしいよ。ぼくはグレープフルーツとぶどうパンがにが手だったけど、しょうぶで少しずつ食べられるようになったよ。

おすすめのかかりは、ゆうびんだよ。ゆうびんがかりは、はこに入っているみんなのノートやプリントをくばって、みんなの名前とせきをおぼえられるよ。

今は心ばいかもしれないけど、学校は楽しいよ。おうえんしてるから、がんばってね。



中等部 学年主任 数学科 横山 道行

完全(またき)に向かいて進まん

77期生の皆さん、中等部へのご入学おめでとうございます。
皆さんの入学を心待ちにしていました。

さて、「77」という数字の並びに、私だけでなく多くの人が特別な印象を受けるのではないのでしょうか。「7」はよく幸運の数字とされます。数学には完全数(自分自身を除く正の約数の総和と、自分自身が等しい自然数)がありますが、聖書にも完成・完全を表す数字があります。それが「7」です。

例えば、神様が天地創造を7日で完成なされ、第7の日を祝福し聖別されたことを聞いたことがあります。他にも「7つのパン」や「7の70倍までも赦しなさい」など聖書を開くと「7」を多く目にします。

ぜひ77期生の皆さんには、中等部での生活と学びを通して、なりたい自分を見つけ、目標に向かって様々なことに挑戦して欲しいと思います。最初から完全・完璧な人はいません。時に悩

み、迷うことを繰り返しながら成長して欲しいと思います。努力する皆さんを私は応援し、見守りたいと思います。

77期は私にとって7期目の担任です。神様の支えに日々感謝しながら、生徒達との3年間の道のりを進んで行きたいと思います。





3年 木内 一果

目標を目指して

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい場所に緊張し、不安で胸がいっぱいの人も多いと思います。

さて、みなさんには中部部で達成したい目標はありますか？私は中部部入学前の課題であった「中部部での目標」という作文に「学友会に入りたい」と目標をかかげました。有言実行を目指し1年生の時には2年学年委員、2年生の時には会長へと立候補し、無事当選することができました。

どんな目標を叶えるためにも、口に出し挑戦することが何よりも大切です。今はまだただ不安で目標なんて見つけれられるわけがないと思ってしまう人もたくさんいるでしょう。それでも3年間しかない時間を有意義に使うには目標を立てるべきだと私は思います。目標が見つからない人はまず自分を見つめ直してみてください。自分の良い所を見つけてそれを活かす目標を作る。もしくは悪いところを見つけそれを直す目標を作る。その目標はきっとみなさんの3年間に彩りを与えてくれることでしょう。これから始まる3年間で明るく楽しいものになるよう祈っています。



高等部教諭 神田 信輔

恵みのギフト

ご入学おめでとうございます。中等部から進学した皆さんも、推薦・帰国入試、あるいは一般入試を経て進学した皆さんも、期待と緊張感をもってこの時期を過ごしていることでしょう。まずは新しい学校生活に慣れ、肩の力を抜いて過ごしてもらいたいと願う一方で、適度な緊張感を維持し続けることも必要です。目標やすべきことに向かって地道な努力を重ね、充実した高校生活にしていきましょう。

青山学院では、聖書の言葉を大切にしています。その中に、「主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」(詩篇 103:2、新改訳)という教えがあります。私たちが神様によって愛され生かされていると知るとき、他の人の評価を超えた存在をそこに確認することができます。そんな神様の良くしてくださったことを、一つ一つ数えてみましょう。失敗や後悔も多くあるかもしれませんが、それらすべてを包み込むほどの「恵みのギフト」が、必ずやあなたを活かし勇気づけてくれることでしょう。

3年 中島 柚香

神様のお導きのもとで

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。高等部では通常の授業による学習以外にも、選択肢に富んだ環境の中で、楽しく有意義な高校生活を過ごすことができます。

私はたくさんの活動がある中で、自主学習団体のフィリピンプロジェクトの活動に参加しています。青山学院では、フィリピンの貧困層の子どもたちをチャイルドファンドジャパンというNPO法人の方々を通して支援していることをご存知ですか？ 支援チャイルドを中心に現地の状況について学び、積極的に交流する活動です。また、この活動とは別に現地を訪問するプログラムもあり、私は初等部の時に参加しました。チャイルドの生活や価値観から多くを学び、社会問題や人権に興味を持つようになったことで、自分自身を見つめ直し、大きく成長することができました。

聖書には「おののいてはならない。あなたがどこに行っても、あなたの神、主があなたと共にいるからだ。」(ヨシュア記1:9)とあります。高等部では多様な価値観を学ぶ多くの機会があります。新入生の皆さんが、恐れずたくさんのことに挑戦し、神様の豊かな恵みとお導きのもとで豊富な経験ができることを祈っています。



大学経済学部教授 芹田 敏夫

たくさん失敗しよう

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから新しい学びや仲間と出会い、多様な考え方に触れながら、さまざまな新しい経験をされることと思います。新しいことへのチャレンジには失敗がつきものです。失敗を恐れてチャレンジしないと大事なチャンスを失ってしまいます。私も大学生活のスタート時に一人暮らしを始め、新しい経験において多くの失敗をしてきました。この世界はわからないことばかりで、私たちの経験や知識は足りないから、失敗するが当たり前だと思います。

青山学院のベースは神への信仰と聖書にあります。聖書の中に

は人間の失敗がたくさん記述されています。たとえば、主イエスの弟子たちは、とんでもないことを発言したり、大事なところで居眠りをしたり、失敗ばかりです。私たちは失敗から多くのことを学ぶことができます。神が支えてくださるのですから、安心して失敗しましょう。

「私は絶えず目の前に主を置く。主が右におられ、私は揺らぐことがない。」

(詩篇 16：8)





総合文化政策学部3年 橋本 莉胡

地の塩、世の光として



新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。

これから始まる青山学院でのキャンパスライフには、皆さんの大きな期待にふさわしい、たくさんの新しい出会いが待っていることでしょう。皆さまの学生生活が、神様の溢れる恵みの中で、豊かに実を結ぶものとなることをお祈りしております。

さて、青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」の示す“塩”には、世を清め腐敗を防ぐ、という役割が期待されていますが、私が高校時代に受けた説教のなかでは、その“塩”に対してもうひとつの役割が示されていました。それは、例えば何か塩辛いものを食べると、自然とグラスに手が伸びるように、“塩”は自然と水を求めるよう 渴きを与える という役割をも担っているというのです。長く、楽しい青山学院での学生生活を終えた時に、神様に味付けされた清めの塩として、あるいは神様という水を求めたくなる渴きをもたらす塩として、世に出ることができるよう共に精進して参りましょう。